三鷹市立南浦小学校　令和8年度【図画工作】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年		○のりを使って接着させることや、折り紙をきれいに半分に折ることに関しては上手にできる児童もいるが個人差がある。今後繰り返し楽しみながら練習できるものを考える。また、表したいことや表し方などについて考え、豊かに発想や構想をする児童が多いが、どう描けばよいのか困っている児童も見られる。 ○友達と関わり合いながら、楽しく活動できている。友達の作品を見て、感想を伝え合っている様子もある。	○用具の使用方法については、安全に使うことと、使いやすい方法を指導する。（個別に確認することも必要。）楽しみながら繰り返し使うことで扱いに慣れさせる。また、児童の発想が広がるように教材や活動を工夫する。例えば、児童にとって身近なものを並べたり、組み合わせたり、積んだり、身に付けたりしながら児童が楽しんで材料とかかわることができる題材などを設定する。発想といっても思いつかない児童もいることから、効果的な資料を選び、児童に提示する。 ○鑑賞の時間を確保し、工夫したところや頑張ったところを発表し、お互いの作品の良さや気付きを言葉で表現できるようにする。タブレットを効果的に活用する。
第2学年	○児童の発想がより豊かに広がるよう、教材や作品の見せ方、活動を工夫したことで、児童が楽しんで材料と関わることができた。 ○鑑賞の時間を確保することで、お互いの作品の良さや気付きを言葉で表現できるようになってきた。	○「わたしのおともだち」では、作っていくうちに愛着が出てきて、その作品を、まるで兄弟姉妹のように扱っていた。また、「光のプレゼント」では、光を通したり、影への色のでかたを試行錯誤したりする姿が見られ、意欲的に活動していた。一方で、道具を安全に使えない児童が数名いるため、継続して指導が必要である。 ○友達と関わり合い、認め合いながら、楽しく作品作りに取り組んでいる。	○発想がより豊かに広がるために、効果的な資料を選び、児童に提示し、表現活動に取り入れさせる。また、完成した作品を先に提示してイメージを膨らませたり、製作途中で友達の作品を見合う活動を取り入れたりして、より発想が広がるようにする。 ○鑑賞の時間を確保することで、自分や友達の作品の良さに気付き、認め合い、交流する。また、それを言葉や文章で表現できるように支援する。支援のしかたは、全体に向けて言葉を例示したり、困っている児童には個別に支援する。
第3学年	○児童が形や色などの感じがわかるよう教材研究を進めた。安全で正しい用具の使い方を指導し、スライドなどで示すようにした。技術的に難しい児童は個別に支援を行った。 ○授業の中で教員が児童の工夫や表現を取り上げて示したり、鑑賞の時間を確保したりして、お互いの作品の良さや気付きを言葉で表現できるようにした。	○表したいこと、表し方などについて試しながら表現する中で想像力を広げて作品を作る児童が多い。手本や周りの様子を見て、まねをする児童も見られる。一方で、どう描けばよいのか困ってしまう児童も見られる。 ○友達と関わり合いながら、楽しく活動できている。友達の作品を参考にしてよいところを自分の作品に取り入れる児童も見られる。	○技術的に難しい児童は個別に支援を行い、表現したい物ができるように支えていく。 ○発想をより豊かに広げるために、教科書のQRコードから作品例を自由に見られるようにする。また、授業の中で教員が児童の工夫や表現を取り上げて示したり、鑑賞の時間を確保したりして、お互いの作品の良さや気付きを言葉で表現できるように支援する。
第4学年	○自分の作りたいものに偏りすぎる傾向が見られ、文字やキャラクターを好む児童が多く見られる。 ○想像力を発揮し大きく表現する児童も多く見られる。 ○タブレットを活用したり、互いの作品を見合ったり、気付いたことについて言葉にする活動を繰り返し設定することで、鑑賞の活動は充実してきている。	○題材の導入で、何を考え、工夫してほしいのかを対話しながら伝え、キャラクターや文字の表現が適しているか否かを押さえて始めた。よく理解して色や形を楽しみ表現する姿が見られた。 ○別の題材では、大きなテーマと既習事項を確認し、キャラクターも構わないし表し方も自分で決めるんだと伝え、始めた。生き生きと自由に楽しく各々違う表現をする姿が見られた。	○授業のめあてを明示するのはもちろんだが、題材の導入でこの題材の面白いところはこんなところなんだ、ここを考えたり工夫したり楽しんだりしてほしい、ということを児童にわかりやすく伝えていく。また、アプローチの異なる題材を計画的に幅広く設定する。
第5学年	○自分が表したいことを見付け表現していく中で、試行錯誤してよりよくを目指す楽しさに気付かせる必要がある。 ○多様な考えや方法を知り、自分のアイディアや技能を深めていく学習過程を工夫していく必要がある。 ○タブレットを活用したり、互いの作品を見合ったり、気付いたことについて言葉にする活動を繰り返し設定することで、鑑賞の活動は充実してきている。	○素直に取り組むが、すぐに作品が完成してしまう児童が多く見られる一方、６年生並みに美しさを捉え、試行錯誤する表現をする児童も出てきている。 ○思考・判断・表現の幅や深まりが少ない児童が多いように感じる。	◎題材初めに自分で見つけた「こうしたい」を最短距離でこなして作品が完成してしまうことから脱却し、高学年らしい知的好奇心や探求心を引き出したい。長期題材を設定したり、短い題材でも個別指導を充実させることで「あ、もっとこうしたらいいのかも」と気付き、自分の表現がぐっと深まる瞬間を経験させていく。
第6学年	○自分が表したいことを見付け表現していく過程で、個々に応じた声掛けを工夫することが引き続き必要である。 ○なかなか主体的に取り組めない児童が一定数いるため、児童が意欲的に取り組むことができる題材や指導計画を設定する必要がある。 ○タブレットを活用したり、名札や鑑賞カードの書式や分量を工夫したりするなど、鑑賞の活動は充実してきている。	○題材のめあてを理解して、自分が表したいことを見付け、取り組める児童が増えてきている。その様子を見て、なかなか取り組めない児童も引き上げられている傾向があり、個別指導もしやすくなっている。 ○持ち物がそろっていない児童が多い。	○「楽しくて楽しくて仕方がない」と思える題材がどの児童にも年に一度は訪れるよう、多様な材料やテーマ、アプローチができるよう題材を設定する。そしてキラリと光っている活動をしている児童を見逃さず認め褒め、自信を付けさせ、前向きに表現活動に取り組めるよう支援する。 ○保護者のサポートがない可能性があるため改善が難しい。図工室の整備をし、貸出しや片付けがしやすいようにする。